1. 横浜を動かしている人々

横浜市民とは何か。こうきかれると，それはわかりきったことのように思われる。多くの人は，たぶん，それは横浜市に常住している人だと答えるだろう。国勢調査で調査した人口はこれであって，その場合に，「常住している人」というのは「当該世帯に3ヵ月以上住んでいるか，あるいは3ヵ月以上にわたって住もうと思っている人」のことだと定義されている。横浜市の人口160万という場合の市民とは，このような人たちのことである。このような意味での横浜市の常住人口が横浜市民であることは，いうまでもない。しかし横浜のような大都市では，そこで経済的にも社会的にも活動している人たちは，横浜に常住している人ばかりではない。市外に住んでいるが，仕事は横浜でしているという人も多いのである。国勢調査でいう昼間人口である。この人たちも横浜市を発展させる力である。したがって，横浜市民としては，このような人々もいれて，考えるべきだろう。

横浜市は，巨大な都市であるから，その市の実態をとらえるためには，総体的に人口という形でみることが必要だが，その場合でも，ただ全体としての数字だけをみるのでなく，どういう背景をもった人々が，どういう仕事をしているか，どういう生活をしているかを，みなければならない。横浜市人口の構造や質という問題はこれである。

要するに，横浜市の人口の動向や構造をみることの意味は，あくまで，現実に横浜市という私たちの社会を動かしている市民，そこに生活している市民の姿を全体的に，客観的にとらえることにあるのである。

2. 人口からみた首都圏のなかでの横浜市の位置

❶ 東京を中心とした首都圏内の人口集中と分散

・人口は160万を突破した　横浜市の人口は，昭和38年12月1日で160万をこえた。人口の点では，東京大阪・名古屋についで全国で第4位の大都市である。まことに横浜市の最近における人口増加のいきおいには，目ざましいものがある。このように，横浜市が人口増加をみたということは，たしかにその発展を表わしているが，同時に，人口の急激な増加は，住宅問題，交通問題，あるいは青少年問題等，市民生活のあらゆる面に深刻な問題を提起している。

なぜ，このように急激に横浜市の人口は増加しているのか，その内容はどうか。これらの問題を理解するためには，われわれは横浜市の人口の動きを，全国的な視野の中で，とくに東京都との関係，首都圏の動向と結びつけて考えなければならないだろう。

明治いらい，日本の人口は，東京および大阪を中心とする地域へたえず集中をつづけてきたが，戦後は，農村人口の絶対数が減少するほどに，京浜，阪神，中京地帯の6大都市への人口集中が，はげしくなった。昭和35年の国勢調査の結果が発表されたとき，最も驚かされたことの一つは，昭和30年から昭和35年までの5年間に，全国26の県で，人口の絶対数が減少したということであった。他方，人口増加をみた都道府県のうちでも増加率が，全国平均（4.6%）より高かったのは，北海道・埼玉・千葉・東京・神奈川・愛知・大阪・兵庫であったが，そのうちでも東京・神奈川・愛知・大阪はとくに高かった。

・東京の人口はどこへ流れていくのか　大都市への人口集中は，単に一都市の人口増加ではなく，その都